

平成28年度

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1495400358	事業の開始年月日	平成26年12月1日	
		指定年月日	平成26年12月1日	
法人名	ヒューマンライフケア株式会社			
事業所名	ヒューマンライフケア菅仙谷グループホーム			
所在地	(214-0006)			
	神奈川県川崎市多摩区菅仙谷3-7-7			
サービス種別 定員等	<input type="checkbox"/> 小規模多機能型居宅介護 <input checked="" type="checkbox"/> 認知症対応型共同生活介護	登録定員	名	
		通い定員	名	
		宿泊定員	名	
		定員計	18	名
		ユニット数	2	ユニット
自己評価作成日	平成29年2月10日	評価結果 市町村受理日		

基本情報リンク先 <http://www.wam.go.jp/wamappl/hyoka/003hyoka/hyokanri.nsf/pSearch3?Open>

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

その人が人らしくあり続け、施設に入居される前と同じように又、それ以上に安心安全穏やかな生活をして頂くように日々心がけております。一人ひとりの個性や趣向を重視した「したい時にしたい事が出来る環境」作りを出来るように心掛けています。地域に根付いた認知症対応型施設として近隣の地域活動にも積極的に参加することで様々な機会を通じて新たな出会いを大切にしていきます。

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社フィールズ		
所在地	251-0024 神奈川県藤沢市鶴沼橋1-2-7 湘南リハウスビル4階		
訪問調査日	平成29年3月14日	評価機関 評価決定日	平成29年5月23日

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点(評価機関記入)】

事業所は、京王線「京王稲田堤駅」からバスで約5分、バス停「西菅団地」下車徒歩約1分、または小田急線「読売ランド前駅」からバスで約9分、バス停「菅高校」下車徒歩約4分の住宅地にあります。運営法人は介護事業を全国的に展開しており、同一敷地内に小規模多機能型居宅介護事業所を併設しています。

<優れている点>

見晴らしと日当たりの良い高台にあり、隣の高等学校グラウンドから元気な生徒の声を聞くことができます。事業所開設時に職員が皆で考え作成した運営理念と、職員行動指針が掲示してあります。その一つの「私たちは常に相手を受け入れます」の実践として、職員は利用者との会話を大切にすることとし、利用者が一人ぼっちにならないよう気配りをしています。職員は積極的に利用者へ話し掛け、会話の多いアットホームな事業所となっています。利用者が来訪者へ挨拶を交わしたり、介護度の低い利用者が高い利用者へ気を配ったりするなど「おもてなし」の雰囲気が出来ています。職員間のコミュニケーションと連携は良く、利用者へのケアサービスにおいて課題や疑問が生じると、その都度、気兼ねなく話し合っタイムリーに対応し、問題が発生しないようにしています。

<工夫点>

「申し送りノート」を、情報共有ツールとしてだけでなく、利用者ごと時系列に把握理解するように、モニタリングツールとしても活用しています。これにより利用者へのサービス品質維持を図っています。

【地域密着型サービスの外部評価項目の構成】

評価項目の領域	自己評価項目	外部評価項目
I 理念に基づく運営	1 ~ 14	1 ~ 7
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	15 ~ 22	8
III その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	23 ~ 35	9 ~ 13
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	36 ~ 55	14 ~ 20
V アウトカム項目	56 ~ 68	

事業所名	ヒューマンライフケア菅仙谷グループホーム
ユニット名	1F

V アウトカム項目			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	○	1, ほぼ全ての利用者の
			2, 利用者の2/3くらいの
			3. 利用者の1/3くらいの
			4. ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○	1, 毎日ある
			2, 数日に1回程度ある
			3. たまにある
			4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている。 (参考項目：36, 37)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている。 (参考項目：28)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない

63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ全ての家族と
			2, 家族の2/3くらいと
			3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ毎日のように
			2, 数日に1回程度ある
			3. たまに
			4. ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えています。 (参考項目：4)	○	1, 大いに増えている
			2, 少しずつ増えている
			3. あまり増えていない
			4. 全くいない
66	職員は、生き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	○	1, ほぼ全ての職員が
			2, 職員の2/3くらいが
			3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての家族等が
			2, 家族等の2/3くらいが
			3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどいない

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている。	理念を共有しているが実践されておらず、今後改め周知徹底実践行っています。	法人理念のほか、開設時に職員全員で作成した理念と行動指針があり、玄関や事務室に掲出しています。さらに利用者へのサービスを充実させようと、理念を具体的に展開させていくことを検討しています。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している。	日常的な交流はないが、行事等での交流を行っています。	事業所の玄関前の駐車場スペースで夏祭りを行い、地域から参加してもらっています。歌のボランティア、職場体験の中学生が来訪しています。また、自治会と具体的な交流について話し合っています。事業所開設3年目で、地域との関係づくりはこれからです。	利用者の地域への参加、事業所の運営推進会議、防災訓練、各種催し物などへ地域の人に参加してもらおうなど、具体的な交流の積み重ねで、更なる関係づくりを進めていくことが期待されます。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている。	ホームを開放的にし日々の散歩、行事などで認知症の方と身近に触れ合い理解を深めています。		
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	活動報告、来月の予定報告後、要望の吸いあげに努めております。	運営推進会議は、併設の小規模多機能型居宅介護事業所と合同で2ヶ月に1回開催しています。メンバーは地域包括支援センター職員、地域コミュニティサロン及び、利用者、家族、事業所管理者となっています。事業所の活動報告とイベントの案内をしています。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる。	生活保護の方を受け入れており保護担当職員とのやり取りや、川崎市健康福祉局高齢者事業推進課へ問い合わせ、相談報告を行っております。	生活保護受給者の認定更新での担当職員、利用者の生活支援相談としてあんしんセンターの担当職員が来所する際に話をしています。事業所運営を担当する市高齢者事業推進課とは電話のやり取りの機会を利用し、事業所の活動について話をしています。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	身体拘束について正しく理解し、身体拘束をしないケアに取り組んでいる居室の施錠は行っておりませんが玄関はテンキー操作にて対応しております	「身体拘束ゼロへの手引き」などのマニュアルがあり、職員採用時に研修を行っています。気になる具体的事例を題材にした研修です。ユニット扉、玄関をテンキー操作で施錠していますが、利用者が外出したい時はその都度、開錠支援をしています。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。	フローア会議等で話し合いをしています。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。	権利擁護に関する研修に参加。各職員周知しています。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	契約時には契約書や重要事項説明書の読み合わせや質疑に十分時間をとり、理解を図っております。（管理者対応）		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	実施及び反映されている	利用者と家族が出席する運営推進会議において意見・要望を聞いています。家族が面会に来所した時にも、職員が積極的に声を掛け意見・要望を聞くように努めています。利用者の意見から遠出の外出を決め、弁当持参でピクニックに行っています。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	会議・朝、夕と職員に聞いています。案に応じて個別に話し合う機会を設けております。申し送りノートを活用して意見を共有しています。	何か意見がある時は、会議での話し合いまで待たず、その都度集まり、管理者も入ってタイムリーに話し合っています。管理者への報告・連絡・相談が出来ます。職員間の情報共有や利用者の状況把握については、申し送りノートを積極的に活用しています。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	現在、個人面談を通し状況確認中です		
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。	新入職員へは職員が付き不安がないよう行っています。研修への参加を促しスキルアップに努めてまいりたいと思います。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている。	現在実施できていませんが今後管理者が同業の施設の管理者と交流を行いたいと思います。		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている。	契約前にアセスメントや契約時等に十分な時間を確保し本人の不安や困難を出来るだけ引き出すように努めサービス開始と共に本人の安心の出来るケアにあたっています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている。	入居前、施設見学、アセスメント時、十分な時間を設け家族等の話を傾聴しています また何かあった時にはご家族に連絡などして関係づくりをしています		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	本人、家族等が必要としている支援の情報を集め会議、カンファレンスを繰り返し本人に沿ったケア情報を行っております		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている。	現場職員そのように意識して携わっております		
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている。	ご家族様と連絡をとる機会を多く持ったり毎月の生活の便にて報告、連絡、相談を行い情報共有し関係を築いています。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	現在実施までには至っていないが今後カンファを行い改めて関係の支援に注力していきたいと思えます	入居時に利用者の暮らしの様子・習慣・嗜好など生活歴を把握し、フェイスシートに記録しています。希望により従前のかかりつけ医への受診や、馴染みの場所への訪問を支援しています。関係継続のケアとして、利用者の思い出話を傾聴しています。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。	生活を共にする同じフロア内の入居者同士の不安時にはフロア間の交流も大切にし施設一体で支えあう環境を築いております。 また併設している小規模多機能とも交流を行い努めています		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている。	退去された方やそのご家族様に対しご本人の状況や不安、困難を傾聴し相談を行っています いつまでも繋がっていただける環境を築いてまいります		
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	ご入居者様全般の生活においてご本人の意向や希望を把握するように努めています。 ご家族様との話から汲み取ることもあります。	利用者が書き物など一人である時、利用者に寄り添い、思いや意向を汲み取るようにしています。家族が面会で来訪した時、家族からも話を聞いています。毎月、居室担当者は家族に、利用者についての「生活の便り」を送り、家族との関係づくりをしています。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	アセスメントでこれまでの生活歴を把握し入居後もご本人やご家族様からにもヒアリングを行っています		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている。	バイタル、排泄、食事、水分チェック表、介護記録や、申し送り、個々の申し送りノートを共有することで日々の現状を全職員が把握するよう努めています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している。	ミーティングなどを通してプランの話し合いなどを実施し作成しております	サービス計画については、訪問リハビリテーションを活用した提案型の計画を積極的に作成しています。利用者のモニタリングは、申し送りノートを活用し、出来るだけ全職員が関わるようにしています。職員間の連携にも役立っています。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。	介護記録、健康管理チェック、申し送りノートを用いて情報共有しています		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。	ご家族様の状況を理解できるように、その時のご利用者様の変化に対して、柔軟な支援に努めている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。	ストレングスの発見には努めている		
30	11	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。	月二回の訪問診療(往診)にて、ご本人様、ご家族様の要望を確認しながら対応している。	利用者全員が事業所の提携医療機関をかかりつけ医としています。平成29年度から、提携医療機関の変更を計画しています。利用者や家族に趣旨を説明し了解を得る手続きを行っています。従前からのかかりつけ専門医に家族が同行して週1回通う人もいます。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している。	週に1度医療連携看護師による健康チェック実施、適切な処置指導を受けています。必要に応じて掛かりつけ医師への報告対応を行い適切な診療を受けております。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	医療関係の方と蜜に連絡し連携をとり、情報共有・交換に努めている。入院時は情報提供書を発行し、退院時は介護サマリー、医療情報提供書の発行を医療機関に依頼している。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる。	ご本人様、ご家族様のご希望、主治医の判断など含めて、職員との間で話し合い、今後理想的と思われる手段で支援できるよう努めている。（契約時に看取りに対する指針を覚書にてご説明差し上げている）	事業所として看取りを行った経験はありませんが、法人内の他事業所では経験があり、それらの経験を活かして医師・訪問看護師・家族・事業所の体制を整えて看取りを行う準備を進めています。職員に看取り介護についての研修を実施しています。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。	身体の安静保持、バイタルチェックなどは実践しています。管理者への報告、指示での対応を行っています。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。	年に二回の様々な状況を想定し（日中、夜間）消防訓練、避難訓練をおこない、職員ご入居者様一同で災害に備えています。	消防署の指導を得て年2回訓練を行い、報告書も完備しています。災害発生時には、法人内の近隣の3事業所間で応援し合う連携体制が出来ています。災害時の停電に備えて非常用電源により最低限の電灯などが一定時間使用できるよう備えてあります。	火災発生時についての避難経路を考慮した具体的な避難訓練をすること、及び地震などの災害時に備えて3日以上のご食料・水と必要な備品を備蓄し管理していくことなどが期待されます。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている。	一人ひとりの人格を尊重した上で、ご本人様の状況に応じて（不穏、幻視、妄想）必要な声かけや対応を行っている。	暮らしの中で「利用者への声のかけ方」を一番大切にしています。姓と名のどちらでも必ず“さん”付で呼びかけ、丁寧に話をすることとしています。忙しさにイライラがある時には、職員同士お互いに注意し合っています。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている。	更衣や入浴、食事等の日常動作の中ではご本人様にできる出来ないの確認しながら自己決定を促している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	居室で過ごされたり、フロアで過ごされたり、ご本人様のペースで生活している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している。	三か月に一回、理美容(訪問)を利用して頂いてる。その日の服装はご本人様に選んで頂いている。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている。	食事は職員も一緒に食べて、味の感想を聞いたり、話しながら召し上がっている。	食事は調理したものを業者から購入して味付けし、ご飯と汁物は職員が調理しています。季節に合わせた行事メニューもあります。職員も一緒に食事をし、会話を楽しんでいます。皆で外食を楽しんだり、おやつ作りを工夫したりしています。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。	個々の状態に合わせた食事形態（常食、刻み、お粥など）での提供を行っています。禁食（食材）の方へは代替えの提供を行い、栄養状態の向上に努めています。また食事水分チェック表を用いて摂取量の把握をおこなっています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている。	食後は声かけを行いケアの促しを行っている。義歯は夕食後、洗浄剤で消毒して起床時のケアで渡している。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている。	拒否の場合以外は行っております	取得水分量、尿・便の状況を詳細に記録しています。これにより一人ひとりの排泄パターンを把握し、出来るだけトイレでの自立排泄を支援しています。オムツの利用は、職員の意見を参考に、本人・家族の納得の上、管理者・ケアマネジャーが決めています。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる。	個々に応じて水分摂取の強化や日中の活動を多くするなどして対応しております		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている。	希望や体調を優先に週二回のローテーションで実施している。	入浴は週2回のペースで、体調も加味して支援しています。浴室の設備、広さ、空調などにも十分配慮し、快適な入浴を提供しています。介護度が高くなり機械浴が必要になった場合は、併設の小規模多機能型居宅介護事業所の浴室で対応することが出来ます。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している。	ご本人様の状況に応じて入床を促している。夜間での不眠に対してはクリニックの医師と相談し対応している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。	医療関係の方の蜜に連携し、薬の変更等がある場合には、職員が連絡ノートを通じて周知できるように努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている。	洗濯干し等日常生活で役割をもって生活している。時折、外に出て外気浴で気分転換している。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している。	ご本人様の意向で、時折お菓子等の嗜好品を職員と一緒に買い物に行かれる。	利用者の体力も少しずつ変化しており、本人の思いと実際は違うことに配慮し、毎日少しでも外出ができるように支援しています。個人で買物をする機会も少なくなっているため、移動パン屋に玄関前駐車場に来て貰い、買い物を楽しむ計画があります。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	ご本人様が何が欲しいのか、選ぶ基準や一連の行動を確認しながら支援を行っている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	ご本人の希望時に対応を行っております		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	窓を開け外の風を感じて頂いたり温度調節、清潔保持に気を配り心地よく生活できるように行っています。	南西向きの居間は明るく一日2回は窓を開け、換気しています。温度・湿度を常に把握して快適さを維持し、全体に“ゆったり”とした雰囲気醸し出されています。壁面には利用者と職員が協働で作った大きな“ちぎり絵”が飾られています。季節が感じられる花などを飾る計画もあります。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	テーブルの配置、ソファの配置などを工夫しています		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	工夫しておりますが、なかには使い慣れたものが「なぜここにあるの？」などの声もありその都度傾聴し対応しております	居室は、利用者の従前の生活歴を考慮して、使い慣れたものや思い出があるものを持ち込み、生活感を出す工夫をしています。居室担当者は、利用者が居心地良く、清潔な生活ができるように支援しています。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。	各居室やトイレなどには分かりやすく表示し生活動線の十分な確保、自立できるような環境作りを行い、安心安全な生活を送っていただいております。		

事業所名	ヒューマンライフケア菅仙谷グループホーム
ユニット名	2階

V アウトカム項目			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	○	1, ほぼ全ての利用者の 2, 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○	1, 毎日ある 2, 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている。 (参考項目：36, 37)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている。 (参考項目：28)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない

63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ全ての家族と 2, 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ毎日のように 2, 数日に1回程度ある 3. たまに 4. ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	○	1, 大いに増えている 2, 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
66	職員は、生き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	○	1, ほぼ全ての職員が 2, 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての家族等が 2, 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどいない

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている。	理念を共有しているが実践されておらず、今後改め周知徹底実践行ってまいります。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している。	日常的な交流はないが、行事等での交流を行っています。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている。	ホームを開放的にし日々の散歩、行事などで認知症の方と身近に触れ合い理解を深めています。		
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	活動報告、来月の予定報告後、要望の吸いあげに努めております。		
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる。	生活保護の方を受け入れており保護担当職員とのやり取りや、川崎市健康福祉局高齢者事業推進課へ問い合わせ、相談報告を行っております。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	身体拘束について正しく理解し、身体拘束をしないケアに取り組んでいる 居室の施錠は行っていませんが玄関はテンキー操作にて対応しております		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。	フローア会議等で話し合いをしております。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。	権利擁護に関する研修に参加。各職員周知しています。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	契約時には契約書や重要事項説明書の読み合わせや質疑に十分時間をとり、理解を図っております。（管理者対応）		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	実施及び反映されている		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	会議・朝、夕と職員に聞いています。案に応じて個別に話し合う機会を設けております。申し送りノートを活用して意見を共有しています。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	現在、個人面談を通し状況確認中です		
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。	新入職員へは職員が付き不安がないよう行っています。研修への参加を促しスキルアップに努めてまいります。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている。	現在実施できていませんが今後管理者が同業の施設の管理者と交流を行いたいと思います。		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている。	契約前にアセスメントや契約時等に十分な時間を確保し本人の不安や困難を出来るだけ引き出すように努めサービス開始と共に本人の安心の出来るケアにあたっています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている。	入居前、施設見学、アセスメント時、十分な時間を設け家族等の話を傾聴しています また何かあった時にはご家族に連絡などして関係づくりをしています		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	本人、家族等が必要としている支援の情報を集め会議、カンファレンスを繰り返し本人に沿ったケア情報を行っております		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている。	現場職員そのように意識して携わっております		
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている。	ご家族様と連絡をとる機会を多く持ったり毎月の生活の便にて報告、連絡、相談を行い情報共有し関係を築いています。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	現在実施までには至っていないが今後カンファを行い改めて関係の支援に注力していきたいと思っております		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。	生活を共にする同じフロア内の入居者同士の不安時にはフロア間の交流も大切にし施設一体で支えあう環境を築いております。 また併設している小規模多機能とも交流を行い努めています		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている。	退去された方やそのご家族様に対しご本人の状況や不安、困難を傾聴し相談を行っています いつまでも繋がっていただける環境を築いてまいります		
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	ご入居者様全般の生活においてご本人の意向や希望を把握するように努めています。 ご家族様との話から汲み取ることもあります。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	アセスメントでこれまでの生活歴を把握し入居後もご本人やご家族様からにもヒアリングを行っています		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている。	バイタル、排泄、食事、水分チェック表、介護記録や、申し送り、個々の申し送りノートを共有することで日々の現状を全職員が把握するよう努めています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している。	ミーティングなどを通してプランの話し合いなどを実施し作成しております		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。	介護記録、健康管理チェック、申し送りノートを用いて情報共有しています		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。	ご家族様の状況を理解できるように、その時のご利用者様の変化に対して、柔軟な支援に努めている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。	ストレングスの発見には努めている		
30	11	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。	月二回の訪問診療(往診)にて、ご本人様、ご家族様の要望を確認しながら対応している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している。	週に1度医療連携看護師による健康チェック実施、適切な処置指導を受けています。必要に応じて掛かりつけ医師への報告対応を行い適切な診療を受けております。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	医療関係の方と蜜に連絡し連携を取り、情報共有・交換に努めている。入院時は情報提供書を発行し、退院時は介護サマリー、医療情報提供書の発行を医療機関に依頼している。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる。	ご本人様、ご家族様のご希望、主治医の判断など含めて、職員との間で話し合い、今後理想的と思われる手段で支援できるよう努めている。(契約時に看取りに対する指針を覚書にてご説明差し上げている)		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。	身体の安静保持、バイタルチェックなどは実践しています。管理者への報告、指示での対応を行っています。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。	年に二回の様々な状況を想定し(日中、夜間)消防訓練、避難訓練をおこない、職員ご入居者様一同で災害に備えています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている。	一人ひとりの人格を尊重した上で、ご本人様の状況に応じて（不穏、幻視、妄想）必要な声かけや対応を行っている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている。	更衣や入浴、食事等の日常動作の中ではご本人様にできる出来ないの確認しながら自己決定を促している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	居室で過ごされたり、フロアで過ごされたり、ご本人様のペースで生活している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している。	三か月に一回、理美容（訪問）を利用して頂いてる。その日の服装はご本人様に選んで頂いている。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている。	食事は職員も一緒に食べて、味の感想を聞いたり、話しながら召し上がっている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。	個々の状態に合わせた食事形態（常食、刻み、お粥など）での提供を行っています。禁食（食材）の方へは代替えの提供を行い、栄養状態の向上に努めています。また食事水分チェック表を用いて摂取量の把握をおこなっています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている。	食後は声かけを行いケアの促しを行っている。義歯は夕食後、洗浄剤で消毒して起床時のケアで渡している。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている。	拒否の場合以外は行っております		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる。	個々に応じて水分摂取の強化や日中の活動を多くするなどして対応しております		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている。	希望や体調を優先に週二回のローテーションで実施している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している。	ご本人様の状況に応じて入床を促している。夜間での不眠に対してはクリニックの医師と相談し対応している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。	医療関係の方の蜜に連携し、薬の変更等がある場合には、職員が連絡ノートを通じて周知できるように努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている。	洗濯干し等日常生活で役割をもって生活している。時折、外に出て外気浴で気分転換している。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している。	ご本人様の意向で、時折お菓子等の嗜好品を職員と一緒に買い物に行かれる。		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	ご本人様が何が欲しいのか、選ぶ基準や一連の行動を確認しながら支援を行っている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	ご本人の希望時に対応を行っております		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	窓を開け外の風を感じて頂いたり温度調節、清潔保持に気を配り心地よく生活できるように行っています。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	テーブルの配置、ソファの配置などを工夫しています		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	工夫しておりますが、なかには使い慣れたものが「なぜここにあるの？」などの声もありその都度傾聴し対応しております		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。	各居室やトイレなどには分かりやすく表示し生活動線の十分な確保、自立できるような環境作りを行い、安心安全な生活を送っていただいております。		